

あなたの合格のために

製図試験.com マニュアル

ver.231124
製図試験.com



合格から逆算すること

製図試験 com の山口です。

この度は、数ある製図試験サイトの中から製図試験 com の合格マニュアルにたどりついていただき、心からお礼申し上げます。スクールは 2024 年で 25 年となり、製図試験業界でも最古参のひとつとなりました。

合格から逆算することの重要性

「合格から逆算すること」というのは、近年、製図試験 com が最も意識している学習概念です。まず合格ラインを理解する。それに対して、あなたの現在のレベルを正確に位置づける。その差が必要な学習量です。減点法で採点されると言われているこの製図試験において、弱点を克服する、減点されやすいところを修正することが非常に重要になります。また逆説的ですが、学習しすぎると試験との距離感が失われたり、バランスを崩したりすることがあります。

合格の一点を見定めて、そこから逆算して学習プログラムを計画し、こなしていくことが最も重要な学習ノウハウになります。

合格ライン = 5 つの力

従来より、問題文の**読解力**、それをエスキースする**計画力**、それを表現する**作図・作文力の 3 つの力**が求められていました。更に近年の製図試験は、曖昧でアナログな採点から、明快でデジタルな採点となってきており、その対策や合格ラインにも変化が見られます。具体的には、「アルナシ・数字・法規」という誰にでもわかる点について非常に大きな減点（内容によっては失格）となっており、そのために 4 番目として**チェック力**が不可欠となっています。

加えて、6 時間 30 分という試験時間をコントロールして、30 分のチェック時間を確保する**時間管理力**が必要です。

そしてそれらを支えるのがメンタルにほかなりません。

試験当日、この 5 つの力をまんべんなく発揮できること。そしてそのメンタル部分を日々鍛えていくこと。

これが目標となる合格ラインです。

2024 年の製図試験 com は更に変化します

合格するためのゴールラインは同じですが、受験経験や建築経験も個々で異なりますし、学習環境も異なりますから、逆算過程において、さらに個別対応を強化する必要と考え、2024 年の製図試験 com は更に進化します。

具体的には、特徴とともに次ページ以降にまとめましたが、

- 1) 完全個別指導、2) 学習レベル課題（模試）、3) 能力レベル別対応、4) 担当チューター制度、5) PDF 対応、6) 2 段階添削、7) 動画スクールツール REVOT 導入

これらの一部は、既存の資格学校にもありますが、トータルで捉えた時に、これまでの資格学校とは次元の異なる指導スタイルになるのではないかと確信しています。

2024 年は、製図試験 com とともに学んで合格をめざしましょう。

2023 年 11 月 24 日

製図試験 com 代表 山口 達也

製図試験.com 3つの特徴

1. どこにもない製図試験オンラインコース

製図試験.com がこだわっていること。それは資格学校の代替案ではなく、資格学校にはない 100%オンラインで学べるというスクールパッケージを作り上げています。その特徴をご紹介します。

(1) 完全個別指導+レベル別学習

7月までの前半戦を中心に個別指導を行います。そのためにあなたが右のどのレベルにあるのか、学習レベル課題（模試）を1月、4月、7月、8月に行う予定です。その結果で4段階に分け、学習方法を一部変更し、前半戦で全員A判定をめざしています。（レベルは他受講生には原則公開することはありません。）合格というゴールは同じであり、指導法が異なるだけでどのレベルの方も全講義受講可能です。個別指導にはチューター制を検討しています。

		6時間30分完成	
		○	×
エスキース理解	○	A	C
	×	B	D

(2) エスキースをステップで学べるカリキュラム

図面だけを添削しても、その過程の間違いを指摘しないと修正できません。製図試験.comでは発足当初からエスキース手順を確立し、また細分化して解説した「ステップで攻略するエスキース」（学芸出版社刊）があります。更に手順は年々バージョンアップしており、2024年度は、更に新しく製図試験.com 動画講座でみっちり解説します。

(3) 2段階添削の導入

通信添削の新しい姿として、答案作成後、あなた自身で添削し、それを送っていただくというセルフ添削を導入することとしました。受講生にはそのための添削マニュアルをお渡しし、かつそのための講座も行います。受講生の皆さんが添削という視点から客観的に答案をみるができるチェック能力を身につけていただけます。

(4) 気軽に質問できてかつ即答するシステム

コミュニケーションツールとしてzoom、新たにREVOTというwebベースのツールを導入予定です。（使い勝手が良い場合はLINE ライクな BAND との併用も検討します）もちろん電話、メールでも気軽に質問していただけます。例えば、「二方向避難がわからない」→「どの部分がどうわからないのか今からzoomしましょうかー」こんな感じです。

(5) すべての添削図面を共有する集合知

シークレットにして欲しい受講生を除くすべての図面とその添削図をメンバーズサイト上で共有しています。原則すべての情報を共有することで、全体の状況や他受講生のミスから学べる人が多いからです。これは集合知となって、全体のレベルを上げていく必要不可欠な方法であると考えています。

(6) 必要にして十分な問題数

問題を解きたい方はひたすら解いていただけるように、じっくり考えて解きたい方は重要な課題のみを徹底して解けるように柔軟な課題量とします。（前半戦 10 課題以上、後半戦 15 課題以上）

(7) アクティブラーニングを用いた講義

資格学校と異なり、製図試験.comでは、事前に問題を解いておき、解いた受講生同士がディスカッションしたりプレゼンするところから講義やワークを行います。会議の前に資料を読んで議論から始める方法だとお考えください。

(8) フルカラーPDF 対応

2024年からフルカラーPDFでの答案提出とします。紙ベースで郵送していただいた場合も弊社でPDF化します。問題文、解答例は紙ベースでお送りしますが、それもPDFとした場合は、PDF割引を行います。

(9) BIM-Revit を使った3D 解答例

3次元で空間把握できるよう全てではありませんが、BIM-Revit を使った3D 解答例を一部アップしています。また製図試験には関係ありませんが、Revitのスクールも別途行っています。

2.小回りの効く融通性ある組織

製図試験 com は、代表である私（山口達也）の私塾として、24年にわたって運営しており、いい意味でも悪い意味でも小回りの効く融通性のある顔の見える組織です。問題文の折り・発送から解答例の作成、質問の受け答えまで、多くは私が絡んでいます。また添削する講師とも連携がとれています。

3.リーズナブルな価格構成

前述したように小さな組織ですから、営業マンもいませんし、大きな教室の家賃もありません。そういった経費を除いた分、内容にかかわらず、大手資格学校では実現できない価格構成となっています。

この資格にかけられる年額は、給与の 1-2 ヶ月分が上限だと思います。それ以上は掛ける試験ではない。ということで十分な学習アイテムと内容を最大化し、かつ費用を抑えてパッケージ化し、年間で 30 万円までをひとつの目安としています。

また今年からポイント型添削を導入し、よりリーズナブルな費用対効果のある添削をめざしています。

Cf：重要な経験値を上げる方法

減点法で採点される製図試験で合格するためには、いつも最低点はキープできること、そのために弱点をなくす学習方法が求められています。しかも短期決戦でその力を身につけねばならないとした場合、短い時間で弱点を克服することが不可欠となります。

そのための重要なノウハウとして、「細分化」してくりかえし、手に覚えさせる学習方法をおすすめしています。

例えば、動線図を描くのが苦手、といいつつ、これまで動線図だけを集中的に練習したことがあるでしょうか。描けるようになるまで練習してきたでしょうか。エスキースのときに 1 回だけ描く、つまり課題数しか動線図を練習してこなかったのではないのでしょうか。

結局、本試験で動線図が甘かったために不合格になったとしても、なんとなくできなかったということで、また翌年、一生懸命、1 問 1 問を丁寧に時間をかけて解く、まではいいんですが、再び動線図が穴のままではそこから不合格への道が開いたままの学習をしていたということになっているわけです。

製図試験 com ではエスキースを 13 ステップに細分化し、それぞれを徹底的に理解し、考え、さらに自らの手法として固めていただくことをひとつの手段としています。弱点がわかるまで細分化し、それができるようになるまでトライする。この方法を身につけると、様々な目前の問題点も、できるようなところまで細分化してこなししていくという手法として使うことができるようになります。これが製図試験の醍醐味だといつも思っています。

Cf：本来は楽しい建築計画

製図試験は、いよいよ制度疲労を起こしており、中味が空洞化していますし、その空洞化していることを暗記する体力勝負のような資格学校のやり方では、学習するモチベーションをキープすること自体がもう修行レベルだと思われます。ですが、本来、2,000m² 級の基本計画を年に 10 も 20 もやれること自体、実は生涯に経験できないような貴重なものです。製図試験 com では少なくとも設計する楽しさを共有しつつ、学べる環境づくりをしたいと考えています。

合格スケジュール

合格するための要は、7月までに基本を完成させておくことです。2024年は7月までの前半戦に力点をしています。

製図試験.com年間攻略スケジュール

ver.231124

項目\日程	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	備考		
	前半戦						後半戦						
	ESTEP	FP	公共施設課題			基礎	補強	直前					
前半戦	学習レベル課題	○			○						問題文無料公開		
	エスキースESTEP講座		○				○				7月は動画学習		
	セルフ添削講座			○			○				7月は動画学習		
	前半戦通信添削3課題				1	2	3				課題配布とオンライン添削あり		
	過去問添削課題				○	○	○				過去問について添削受け付けます		
	学習レベル判定模試							○			6時間30分一式		
後半戦	2024年度課題発表												
	オープン課題							○			問題文無料公開		
	後半戦通信添削4課題							1	2		4	課題配布or課題添削コース	
	通信添削変形課題							R		R	R	各課題の条件変更課題	
	基本問題集								○			3課題を予定	
	過去問添削課題						○	○				本年度課題に応じて設定します	
	学習レベル課題									3		第3課題をレベル安定課題とします	
	シンクロ二模試										○	6時間30分一式	
	総まとめ										○	まとめ資料と解説	
	直前まとめ課題											○	シークレット課題
講習系	ガイダンス	○					○					何でもお答えします	
	講習(東京・大阪・O/L)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	計13回程度を予定
	自主ゼミ(東京・大阪・O/L)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	計8回程度を予定

前半戦(課題発表までの基礎体力づくり) : 基礎づくり→隔週ペース

学習レベル課題(自己分析用)

まず、1月中に学習レベル課題でレベル判定を行い、合格への目標を相談しながら設定します。

2つの基礎講座(ESTEP講座+セルフ添削講座)

学習レベルに沿って、エスキースステップ講座及びセルフ添削講座を行います。この部分の基礎訓練が重要です。

全体講義は動画配信を、個別指導はzoomを利用します。

徹底的に公共施設系課題

4月からは、全てコミュニティ施設でこれまでの基礎を磨く3課題(+過去問)を隔週で行い、前半戦のまとめとして、学習レベル判定模試を行います。目標は全員レベルAとなることです。

前半戦の目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3時間作図+1時間要点、そしてプランニングパーツの構築です。

後半戦(2024年本試験対応)→毎週ペース

課題発表とともにオープン課題を公開します。その後、4添削課題+4課題変形課題を毎週出題します。またお盆前後に、2024年度課題解説テキスト「課題分析帖2024」、9月初旬にパーツ集、基本問題集3課題を送ります。

8月末までの目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3時間作図、そしてプランニングパーツの構築です。

9月からは、要点+弱点補強に特化し、9月末にシンクロ二模試を行います。その上で最終、直前まとめ課題を予定しています。試験対策としては、できるだけ平常心でどう臨めるのか、という点を共有してまいります。

□スケジュール詳細 (ver.231124)

現時点での2024年全スケジュールです。オンライン・大阪は土曜日、東京は日曜日開催予定です。

Term	NO	カリキュラム	O/L大阪(土)	東京(日)	山口	全体予定・備考	
前半戦	O/L	ガイダンスセミナー・個別相談	1月4日～		O/L	動画配信・オンライン面談予定	
	O/L	学習レベル課題公開	1月12日		O/L	レベル把握用・問題文公開予定	
	1	1月講習(学習レベル課題解説)	1月27日	1月28日	○	ガイダンスも含めた講習	
	O/L	エスキース学習スタート	2月5日		O/L	動画配信+個別対応	
	2	2月講習	2月17日	2月18日	○	ステップエスキース1日講習	
	O/L	セルフ添削学習スタート	3月4日		O/L	動画配信+個別対応	
	3	3月講習	3月16日	3月17日	○	セルフ添削1日講習	
	O/L	学習レベル課題トライ	3月30日		O/L	レベル再設定用課題	
		■	製図試験申し込み				
	公共施設課題	4	第1課題トライ	4月6日	4月7日	*	コミュニティ施設課題1
			第1課題講習	4月20日	4月21日	○	同課題の講習
		5	第2課題トライ	5月4日	5月5日	*	コミュニティ施設課題2
			第2課題講習	5月18日	5月19日	○	同課題の講習
		6	第3課題トライ	6月1日	6月2日	*	コミュニティ施設課題3
		第3課題講習	6月15日	6月16日	○	同課題の講習	
7		学習レベル模試	7月6日	7月7日	○	コミュニティ施設課題模試	
後半戦		■	学科試験	7月21日			
	O/L	オープン課題(課題発表)	7月19日		O/L	本年度課題を当日配信	
	O/L	課題解説ガイダンス	7月29日	7月30日	○	O/L・直接面談も含め開催	
	1	第1課題トライ	8月3日	8月4日	*	当日振り返り予定	
	☆	本年度課題分析帖発送	8月9日オンラインデータ		-	紙ベースは8月15日予定	
		夏期講習会	8月10-11日	8月12-13日	◎	1日目エスキース・2日目作図	
	2	第2課題トライ	8月17日	8月18日	*	当日振り返り予定	
		第2課題講習	8月24日	8月25日	○	同課題の講習+演習	
	☆	基本問題集発送	8月28日予定		-	全4問の予定	
	3	第3課題(学習レベル課題)	8月31日	9月1日	*	当日振り返り予定	
		■	学科試験合格発表	9月5日		■	学科不合格者返金
	☆	本年度パーツ集発送	9月6日予定		-	20ページ程度	
	弱点補強		第3課題講習	9月7日	9月8日	○	同課題の講習+演習
		4	第4課題トライ	9月14日	9月15日	*	当日振り返り予定
		第4課題講習	9月21日	9月22日	○	同課題の講習+演習	
5		後半戦シンクロナ模試	9月28日	9月29日	○	直前講習会あり	
直前			直前まとめ	10月5日	10月6日	○	最終確認
	6	直前まとめ課題+まとめ資料	10月9日(水)		O/L	資料送付+解説	
		■	製図試験	10月13日		■	当日に速報予定

前半戦は7課題+過去問とし、2-3月は基礎固めとします。

↑○山口参加、*自主ゼミ、O/Lオンライン山口参加

後半戦は4課題+変形4課題+模試+オープン課題+基本問題集3課題+直前まとめ課題

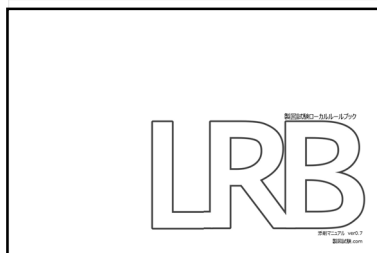
課題数が足りない方は別途個別対応として課題を用意します。

上記は全て予定ですので、日程や内容を変更することもあります。

学習アイテム解説 + 進め方

テキスト・教材

- ・無料メールマガジン + 受講生専用メールマガジン（非公開）
- ・ステップで攻略するエスキース（学芸出版社刊）
- ・製図試験 comLRB 添削マニュアル（非売品 2 月発行予定）
- ・2024 年度課題分析帖 + パーツ集 + まとめ資料
- ・基本問題集（全 4 課題）
- ・用紙厚紙・エスキース共に 10 枚（通期で 20 枚）



製図試験 com 基礎学習講座

- 標準パーツ集 + 解説メールマガジン + 解説動画（30 本程度）
 - Udemy オンライン 3 講座（各 6 時間程度） + REVOT 動画配信
- この学習を通じて、学習レベルを D→C→B→A と上げていきます。

課題構成

課題は一部を除き、問題文 + 答案用紙 + エスキース用紙 + 解答例 + 解答例エスキース が一式のセットとなっています。

- ・全て PDF として弊社からの紙ベースの郵送が不要な方には PDF 割引があります

前半戦：10 課題（学習レベル課題 2・課題 3・模試・過去問題 5 課題他）

後半戦：15 課題（オープン課題・4 課題（+ 変形課題 4 課題）・模試・直前課題 1 課題・基本問題集 3 他）

課題の講義：ZOOM（1 課題につき 1 時間程度、昨年実績 20 時間）

学習の進め方

2024 年度から個別指導を始めます。特に前半戦の終了までに学習レベル A つまりエスキースの理解 + 6 時間半完成までを目標とし、中間 3 月末で実現の目処を立てます。ここまでに目処を立てることが合格へのステップとなります。

レベル A までには、解くというステップの学習と、それを時間内にこなすという 2 つの大命題がありますので、そのための反復練習にトライすることが必要です。

一方、既にレベル A の方は、むしろ多くの問題を解くことで、より実力を強固なものにすることと、セルフ添削を確実にこなすようにすることでチェック力のアップを図るという命題があります。このようにゴールは同じですが、前半戦は足並みを揃えるよりも個別のレベルアップがテーマとなります。

課題発表後の後半戦は 12 週ありますが、9 月 1 日までの後半戦の基礎構築に充てています。やはりレベル A をめざすこと、レベル A に到達している方は問題をこなすことで精度を高め、実力固めをすることを目標とします。

レベル A までの過程では、単に反復練習をできるまでやるという非常に単調かつ過酷な練習が不可欠です。

学習ポイントは、「細分化して小さい成功を積み上げていくこと」です。その延長線上に合格があります。

コースと費用

製図試験 com コースと費用（予価）

製図試験 com では、既に十分合格するレベルにあり、費用を最小限にしたい方のために、教材提供 + 全動画閲覧可能な教材コース（コース1）、それに添削を含めたオンライン添削コース（コース3）、スクーリングまで行う通学塾（コース4）があります。添削については、セルフ添削を導入し、弊社で細かく添削する方向から、よりスピーディに添削することを目標とすることとしました。申込みは12月12日を予定しています。

2024年度製図試験comコース費用

ver.231124

コース	項目	基礎講座	教材前半戦	教材後半戦	前半戦添削	後半戦添削	前半戦通学	後半戦通学	費用税込	既添削生費用税込	備考
通期（前半戦 + 後半戦）											
	製図試験com基本講座	■							37,000	12,000	全員受講必要
	コース1教材コース	■	■	■					147,000	122,000	教材のみ添削なし
	コース3 オンライン添削コース	■			■	■			257,000	232,000	教材・添削込
	コース4 通学塾コース（東京・大阪）	■			■	■	■	■	367,000	342,000	通学 + 自主ゼミ22回込
*コース1/3でPDFのみの場合さらに1万5千円引き											
後半戦											
	製図試験com基礎講座	■							37,000	12,000	全員受講必要
	コース1教材コース	■		■					108,000	98,000	教材のみ添削なし
	コース3 オンライン添削コース	■		■		■			210,000	190,000	教材・添削込
	コース4 通学塾コース（東京・大阪）	■		■		■		■	300,000	270,000	通学 + 自主ゼミ12回込
*コース1/3でPDFのみの場合さらに1万円引き											

- ・エスキースとセルフ添削の基本を押さえるために基礎講座を必須とし、コース費用に含めています。
- ・自学自習できる方は教材コースを、添削が必要な方はオンライン添削コースをご選択ください。
- ・東京・大阪では、スクーリングを行います。スクーリングご希望の方は通学塾コースをご選択ください。
- ・コース1/3で紙ベースは不要でPDFのみで良い方は、本年度も通期1万5千円、後半戦1万円減額します。
- ・添削は前半戦10回分、後半戦10回分、計20回分の費用となっていますが、前半戦の分を後半戦には使えません。
- ・追加添削はコース1で11,000円/課題、コース3で5000円（税込）です。添削への質問は常時受け付けています。

Cf：セルフ添削の重要性

これまででも、自己チェックリストとか、採点チェックリストとかを行っている資格学校はあります。しかし、その判断基準や考え方を共有し、その理論的背景を共有して、一定の添削ができるような自己添削ができるようなカリキュラムは存在していませんでした。それはその資格学校のノウハウの全てであるからです。またそれを公開してしまうと、試験作成サイドが逆読みできるということから、チェックリスト基準を明らかにしていくことは禁忌であったといつてよいでしょう。

また、その基準を公開した段階で、評価する者が評価されるという循環が起こり、資格学校側としてのメリットはほぼないと考えてもよいでしょう。しかしその上で、なぜ製図試験 com は、添削マニュアルを共有公開するのか。それは、そうやって学んだほうが受験生にとっては合格しやすいと考えたからです。

受講生一人一人が添削講師レベルまでセルフ添削できること。これが製図試験 com の究極の目標なのです。

オンライン添削イメージ

オンライン添削は下記のような手順をイメージしています。

製図試験com事務局		受講生	
① 問題送付	問題作成	送付・PDFアップ→	受取
② 問題トライ セルフ添削			問題トライ・セルフ添削
③ 答案送付	受取	←送付・PDFアップ	答案送付
④ 個別指導	個別指導	←アプリzoom→	不明点整理
⑤ 未添削 図面共有	未添削図面の共有		
⑥ 添削返却	添削	送付・PDFアップ→	受取
⑦ 質疑応答	応答	←アプリzoom→	不明点整理
⑧ 添削済 図面共有	添削済図面の共有		
⑨ まとめ	解説・解題	←アプリzoom→	参加
① 追加問題送付	追加問題作成	送付・PDFアップ→	受取
②	受取	←送付・PDFアップ	問題Rトライ/解き直し

- ① 問題文を送付とともに PDF でもサイトアップ
- ② 1 回目トライ + セルフ添削
- ③ 送付 もしくは PDF アップ
- ④ 個別指導やりとり
- ⑤ 未添削図面共有
- ⑥ 添削返却
- ⑦ 質疑応答
- ⑧ 添削済図面共有
- ⑨ 全体でディスカッション (録画あり)
- ① 必要に応じて追加課題のやり取り
- ② ……

Cf : 情報の共有とノイズ

昨年まで情報の共有をできるだけしていたのですが、できている方にはノイズとなり、できていない方には膨大で情報過多というノイズになってしまっていた一面がありました。

即応性と共有という問題は常にこの危険性をはらんでいます。

そこで本年度は、今まで使っていた BAND を一旦中止し、REVOT という動画情報管理ツールを使うこととしました。

この動画情報管理ツールにあるチャット機能で連絡を取り合うようにしようとして現在、新たなシステムを構築中です。

製図試験は情報戦です。

どこまで根拠のある角度を持った情報を整理していくのか。

その情報リテラシーを磨くことはもしかすると製図試験に合格するよりも重要で不可欠な能力なのかもしれません。

そして製図試験を通じて、これらの情報リテラシーと共に鍛錬しつつ、合格をめざしていきたいと願っています。

製図試験.com ご紹介

名称：製図試験.com (<https://seizushiken.com>)

運営：有限会社 I.L.D. 教育事業部

大阪事務局

〒554-0012

大阪市此花区西九条 2-7-8 田丸ビル 3 階

電話 06-7181-3701 FAX 廃止

メール：guchi@seizushiken.com

東京講習会場

〒101-0042

東京都千代田区神田東松下町 33

COMS HOUSE 2F としまち研 会議室

指定金融機関：ユ) アイエルディ

Paypay 銀行 すずめ支店 普通 3175127

ゆうちょ銀行 ○九九店 当座 0222802

郵便振替：00970-2-222802



関連サイト：FB <http://facebook.com/seizushiken/> ツイッター <http://twitter.com/seizushiken/>



代表：山口 達也（ハンドルネーム：曾根 徹）

1962年11月26日生

大阪工業大学建築学科都市計画研究室

神戸大学環境計画学専攻、工学修士（早川和男研究室）

阪神電鉄就職後、レンゾピアノビルディングワークショップに転職。

都市計画コンサルタント、経営コンサルタント、CM 会社等を経て、

有限会社 I.L.D. を設立。セルフビルディング中心に設計活動の傍ら、
2000年に「学科製図.com」を設立。

24年間で3,000余名の一級建築士を輩出。

2015年コンテンツをまとめなおし、「製図試験.com」を立ち上げ。

一級建築士設計製図試験だけに特化したしくみを開始。

業界初のオンライン添削・ZOOM ウェビナーを開始。

2018年より学科試験.com も同時に主宰。

2023年より阪南大学非常勤講師